

民間支援団体へのヒアリング結果について

1. 支援団体Aの取り組み

(1) 相談内容

主に若年者が利用する媒体などを使って受けた相談内容は、生活苦・仕事・進学・いじめなどの人間関係や妊娠・性のことなど多岐にわたる。

(2) 相談者の背景

相談者は、ひとり親・虐待・経済的困窮など出身家庭が脆弱で、家族を頼れないケースがほとんどであり、発達特性のある者が多い。

また、若年者は大人への不信感を抱いており、行政機関への相談はハードルが高い。

(3) 支援方法

食糧支援などを行ないながら関係構築するほか、居場所なども提供し、医療機関や行政機関への同行支援や個別面談による寄り添い支援を実施している。また、支援が必要な若年者には、命の危険がある場合を除き本人の同意を得て、行政に繋いでいる。

若年者が相談に繋がるためにはしっかりした若年者への相談技術を持つマンパワーと支え続けるための財政支援が必要である。

(4) 行政に期待すること

現在の取り組み状況からみても、対象者との信頼関係の構築は支援団体の方が適しているため、アウトリーチは支援団体にまかせてもらい、行政には対象者を支援窓口につなげてからの支援を行ってほしい。

2. 支援団体Bの取り組み

(1) 相談内容

主に若年者が利用する媒体などを使って受けた相談内容は、経済・住居などのほか、人間関係や妊娠・性のことなど多岐にわたる。

(2) 相談者の背景

相談者は、ひとり親・虐待・経済的困窮など出身家庭が脆弱で、家族を頼れないケースがほとんどであり、仕事よりも家族関係に疲弊していることが多い。また、自らを取り巻く問題点が分からず、自分自身に非があると思いつ込んでおり、団体の支援を受けていく中で初めて自身が置かれた状況に気づいているケースが多い。

さらに、こういった場合、就労に必要なスキルや社会資源の活用方法を親などから教わっておらず、自らだけで行政機関に相談するという手段の発想に至らないなど、負の連鎖が続く可能性が高い。

(3) 支援方法

食糧支援などを行ないつつ、相手との人間関係を構築していきながら、相談内容を聞き取り、行政機関などへ繋いでいる。

また、団体の活動範囲は神戸郊外であるが、連携できる支援団体が少ないこともあり、将来的には地域全体で支えていけるようにすることを目指しているため、日頃から地域（学校・児童館・地域住民など）と連携して支援活動に取り組むようにしている。

さらなる支援の充実にむけては、困っている人がいつでも相談に行けるように、相談者が居住している近隣に活動拠点を確保したいと考えているが、財政的な問題で確保に至っていない。

(4) 行政との役割分担について

現在、団体が相談内容・課題を整理し、必要に応じて行政の支援窓口につなげており、行政機関とも連携して円滑に支援ができているものと考えている。